

近年の大規模土砂災害の多発や、それに対する各種法整備状況を踏まえ、高山市・飛騨市・白川村・岐阜県・国土交通省等の各防災担当者が一堂に会し、災害発生前から大規模土砂災害の発生、住民避難までの一連の流れを想定した合同防災訓練を実施する。

- ①開催場所：高山市(予定)
- ②開催時期：平成30年10月末(予定)
- ③主催者：神通川・庄川上流域大規模土砂災害対策連絡協議会
- ④訓練方式：ロールプレイング方式等を検討し、決定
- ⑤災害の誘因条件：地震及び降雨(予定)
- ⑥訓練参加者：(予定)

高山市、飛騨市、白川村、岐阜県(危機管理部防災課、県土整備部砂防課、飛騨県事務所、飛騨農林事務所、高山土木事務所、古川土木事務所)、林野庁(中部森林管理局飛騨森林管理署)、国土交通省(中部地方整備局高山国道事務所、北陸地方整備局、神通川水系砂防事務所、TJSSE)

■訓練方式の比較

訓練方式	学習型方式 (平成27～29年度実施)	ロールプレイング方式	ロールプレイング方式 (解説併用型)
概要	➤ 質疑応答型の訓練	➤ 実時間に基づく実践的な訓練	➤ 実時間に基づく実践的な訓練
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ○各機関の回答を相互確認しながら進行するため、基礎知識力の向上に適している ○初めての訓練参加者にもわかりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の実対応に近い状況で行うため、より実践的な災害対応能力の向上が期待出来る ○参加者の対応によって訓練が進行するため、参加者個人が主体的に訓練へ参加できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害の実対応に近い状況で行うため、より実践的な災害対応能力の向上が期待出来る ○主要テーマ毎のステージ構成にするため、ステージ毎に総括を行うなど、メリハリのある訓練進行が可能となる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ●時間的に回答者が限られてしまうことがある ●各機関の具体の対応の確認には不向き 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害対応の基礎的な知識がない場合、訓練内容の理解ができないままとなる恐れがある ●参加者の対応によって訓練の進行時間等が変化するため、機関毎の進行が差が生じる 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害対応の基礎的な知識がない場合、訓練内容の理解ができないままとなる恐れがある
実績	<ul style="list-style-type: none"> ●当協議会では、平成27～29年度の3回採用 ●土砂災害対応の分野では平成22年度以降多くの地域で採用されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●土砂災害対応だけでなく河川等様々な災害対応の訓練方式として採用されている方式である 	<ul style="list-style-type: none"> ●東京都などの大規模災害を想定した机上訓練の方式として採用されている方式である

➡ **本年度訓練は、「ロールプレイング方式」(提案)。**
 (訓練が一周したことで、より実践的な方式の採用(ステップアップ)が望ましい)